

# 船舶事故調査報告書

平成30年3月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	平成29年11月5日 13時40分ごろ
発生場所	香川県坂出市沙弥島 <sup>しやみ</sup> 北方沖 坂出コスモ石油シーバース灯から真方位242° 1海里付近 (概位 北緯34° 21.2′ 東経133° 49.2′)
事故の概要	プレジャーボート <sup>こうとく</sup> 孝徳丸は、南南西進中、転覆した。
事故調査の経過	平成29年11月7日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 孝徳丸、1.0トン KA3-28782（漁船登録番号）、個人所有 第280-42780号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船外機等に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約2.1m/s、視界 良好 海象：波高 約2m、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人を乗せ、坂出市三ツ子島東方沖での魚釣りを終え、香川県丸亀市丸亀港に向け、約12ノットの対地速力で手動操舵により沙弥島北方沖を南南西進していた。</p> <p>本船は、船長が、後部にある操舵区画で椅子に腰を掛けて操船に当たっていたところ、船首方に高波を認めたので、スロットルレバーを緩めて減速したところ、船尾方から波高が2mを超える波を受けて左舷方に転覆した。</p> <p>船長及び同乗者2人は、転覆した際に海へ投げ出され、本船の船底に上がっていたところ、通り掛かった遊漁船の船長が海上保安庁に本事故の発生を通報し、来援した巡視艇によって救助された。</p> <p>船長は、沙弥島沖の航行経験が約40～50回あり、沙弥島周辺は干出浜（岩）で囲まれており、水深が約10mから約1mに急激に浅くなっている地形で、波が発生しやすい場所であることを知っていたが、これまでは波高が約1mの波しか見たことがなかった。</p> <p>船長は、沙弥島北岸から距離を隔てて航行すれば良かったと本事故後に思った。</p> <p>船長及び同乗者2人は、本事故当時、船長及び同乗者1人が救命胴衣を着用しておらず、別の同乗者1人が救命胴衣を着用していた。</p>
分析	本船は、沙弥島北方沖を南南西進中、波が発生しやすい地形の沙弥島北岸に接近して航行していたことから、波高が2mを超える波を受

	<p>け、転覆したものと考えられる。</p> <p>船長は、沙弥島北岸付近が波の発生しやすい場所であることを知っていたが、これまでに波高が約 1 m の波しか見たことがなかったことから、沙弥島北岸に接近して航行していたものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、沙弥島北方沖を南南西進中、波が発生しやすい地形の沙弥島北岸に接近して航行していたため、波高が 2 m を超える波を受け、転覆したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 波が発生しやすい地形の海域には接近しないこと。</li> <li>・ 小型船舶に乗る際は、救命胴衣を着用すること。</li> </ul>